

滞日ムスリムによる結社活動の再検討

——利他性の起源をめぐって

高橋 真央

はじめに

- 1 調査方法と対象
 - 2 滞日ムスリム・コミュニティにおける利他的行為の行動原理
 - 3 滞日ムスリム・コミュニティにおける利他性の起源
- おわりに

はじめに

(1) 問題の所在

宗教の重要性は、国境を越えて移動する移民にとってより高いものであることが指摘されてきた (e.g. Warner 1993)。移動によりそれまで築いてきた社会関係から切り離される移民において、宗教という一次的な帰属を拠りどころとする紐帯は、新たな社会関係の構築につながる (園部 2014)。宗教による紐帯に依拠して構築される移民コミュニティでの結社活動は、移民に社会・経済的な支援を提供し、新たな地での生活に足がかりを与えてくれる (Min 1992; Hirschman 2004; Cadge and Ecklund 2006; Foner and Alba 2008; Voas and Fleischmann 2012; Portes and Rumbaut 2014)。

本稿で取り上げる滞日ムスリム・コミュニティは、絶対的な信者数は多くないものの、研究者の注目を集めてきた (桜井 2003; 樋口他 2007; 工藤 2008; 福田 2012; 子島 2014; 店田 2015, 2018)。これは、単にイスラームが異文化の象徴とみなされるだけでなく、その活発な結社活動が注目されていることにもよる。マスジド (モスク) の設立数をみると、1980 年以前には日本に 3 カ所しかなかったのが、2017 年には 102 カ所まで増えている (店田 2018)。賃貸住宅を礼拝所とするムサッラーとは異なり、マスジドは持続性が求められるため不動産の購入が条件となり、設立には巨額の資金が必要となる⁽¹⁾。滞日ムスリムは、マスジド設立のための資金を地域に住むムスリムからの寄付に加えて、国内外のネットワークを活用して工面してきた (店田 2015: 30-32)。他の移民集団と比べると、きわめて活発な結社活動を行ってきたといえるだろう。滞日ムスリムによる

(1) 建物の大きさや立地条件により変わるが、マスジドの開設には数千万から数億円ほどかかると思われる (店田 2018)。

活発な資源提供の一例として、東京都豊島区に所在する大塚マスジドを拠点とする活動が挙げられる。大塚マスジドは、滞日ムスリム・コミュニティのニーズに応える形で多様な社会制度を発展させてきた。

大塚マスジドだけではなく、各地に設立されたマスジドは、単なる礼拝施設としての役割にとどまらず、移住先で生きるために必要な複数の機能を併せ持つようになる（岡井 2007:191）⁽²⁾。他にも、パキスタン人移民を事例として、移民適応におけるイスラームの機能を分析した研究（福田 2012；子島 2014）やマスジドの役割拡大に関する研究がある（川添 2017；伊藤 2021）。これらは、イスラームが滞日ムスリムに果たす機能を分析した点で価値があるが、以下の2つの問題がある。

第1の問題は、先行研究ではマスジドの機能に焦点を当てる傾向が強く、組織を単位とした記述が圧倒的に多かった。しかし、組織活動は個々の構成員による貢献（資源提供）の結果でもある⁽³⁾。組織のみに目を向けると、水面下での動き——個人が貢献する（しない）要因——を明らかにできない。滞日ムスリムは、なぜ多くのマスジドを建設できたのか。こうした問いに答えるに際しても、個人を単位とした分析が必要になる。

第2の問題は、滞日ムスリムによる資源提供の構造が見逃されてきたことである。従来の研究は、イスラームが滞日ムスリムたちに果たす機能を分析したという点では価値ある研究である。だが、組織に蓄積される資源に焦点を当てるあまり「イスラームがなぜそれらの機能を備えることができたのか」という資源提供の原理を見落としている。

なぜこうした滞日ムスリムによる利他的行為が可能になるのか。移民研究の文脈では、社会関係への埋め込みにより説明することが多かった（Portes and Sensenbrenner 1993）⁽⁴⁾。社会的埋め込みとは、分析対象となる行為や制度が進行中の社会関係に強く制約されるため、それらを独立したものとして理解するのは重大な誤りであるとする議論である（Granovetter 1985：482）。実際、日本の滞日ムスリム・コミュニティ研究の文脈においても、滞日ムスリム・コミュニティおよび大塚マスジドにおける活発な社会制度の発展について、イスラームの教えに言及しつつも相互扶助ネットワークの存在が強調されてきた（岡井 2021；佐藤 2022）。

しかし、大塚マスジドで参与観察を重ねるにつれて、埋め込みの議論が想定する前提——緊密な社会関係が利己的行為を抑制する機能をもつ——とは異なる姿が見られた。たとえば、筆者は大塚マスジドの女性の礼拝室で開催される土曜日の勉強会に定期的に参加していた。勉強会には10人ほどしか集まらず、固定的なメンバーであることが多い。よく参加するメンバーでも必ずいるのは担当者くらいであり、その他のメンバーはある種気ままに参加していた。

ムスリム・コミュニティは閉鎖性が強い姿が想定されてきた。特にヨーロッパのムスリム移民は、自分達の社会空間であるマスジドに閉じこもり、信仰および宗教アイデンティティを発展させている排他的な集団という印象がついてまわる（安達 2018：103）。その結果、ヨーロッパではイ

(2) Waardenburg (1988) は、異文化におけるマスジドの社会的機能として以下を挙げている。(1) 信仰、(2) 共通の信仰をもつ人との出会い、(3) 社会・文化的価値の継承、(4) イスラーム教育の提供、(5) アイデンティティの付与、(6) イスラーム・プレゼンスの強調。

(3) 資源提供は「他者の利益になる行為がどうかにかかわらず行われる何かしらの提供」と定義する。

(4) 利他的行為は「自己の利益ではなく他者の利益になる行為」と定義する（稲場 2011：41）。

スラームを統合への障壁とみなす傾向が強い（Foner and Alba 2008；Voas and Fleishmann 2012；Sunier 2021）。

しかし、筆者の調査経験は、閉鎖的で凝集性が高い集団というムスリムのイメージとはかけ離れていた。では、滞日ムスリム・コミュニティでは何が利他性の起源となり、他の移民コミュニティより活発な資源提供を可能としているのか。本稿では、滞日ムスリム・コミュニティにおける利他性はどのような性質を有するのかを明らかにした上で、その利他性の起源を指摘することを目的とする。滞日ムスリム・コミュニティでのフィールドワークおよびインタビュー調査に基づき、個人を単位とした分析からこのリサーチ・クエスチョンを解いていくこととしたい。

なお、宗教信者による利他性の起源を検討するにあたり、宗教的理念に基づく宗教的利他主義が重要となる。多くの宗教において慈善が信者の義務として説かれ、利他的行為の対象である受益者との関係は神を媒介として理解されてきた（稲場 2011：46-48）。

（2）滞日ムスリム・コミュニティにおける利他性をめぐる2つの仮説

一般に、移民コミュニティは相互扶助ネットワークが発達した空間とみなされてきた（樋口 2005）。これは、移民コミュニティへの社会的埋め込みにより、移民の利他的行為を生み出すためである（Portes and Sensenbrenner 1993）。

では、滞日ムスリム・コミュニティの特徴として、緊密な社会関係が存在しなかったにもかかわらず、何が利他性の起源となるのか。本項では、「社会的埋め込み」と「間接的互酬性」に着目し、これら2つの仮説は、滞日ムスリムの利他的行為をどの程度、どのように説明できるのか、調査結果に照らして理論的な検討を加えていく。

①社会的埋め込み仮説

「社会的埋め込み」を本稿の文脈に即していえば、個々の行為者は自らの選好のみによって行動できるわけではなく、社会関係の縛りを受けて利己的行為に制約が課される。利己的で合理的な個人が、利他的行為をとる鍵となるのが、社会関係というわけである⁽⁵⁾。

こうした前提に基づく一連の研究は新経済社会学と呼ばれるが、このアプローチは移民研究に大々的に取り入れられてきた（Portes 1995）。経済資本や人的資本に恵まれない移民が上昇移動を遂げるに際して、社会関係資本が重要な役割を果たしてきたからである。ポルテスとセンセンブレナーは、移民が「よそ者であること（foreignness）」が、コミュニティ意識を高めるという。移民コミュニティは、よそ者同士でのみ成り立つ「限定的連帯（bounded solidarity）」と、社会関係の緊密さに由来する「強制力をもつ信頼（enforceable trust）」を育む基盤となる（Portes and

(5) リンによると、特定の社会集団において経済的地位と社会的地位は交換可能なものとなる。社会的地位は、個人の持つ資産だけでなく自らが属する集団全体の経済的豊かさの上にも成り立っている。そのため、自集団への融資は利子を得るための経済行為であるとともに、社会的地位を高める目的も伴う。名声を維持するべく持続的社会関係に参加することこそ、行為者にとって合理的な選択となる。債務者は自身が債権者に借りがあるという事実を、社会的ネットワークを通じて他者に知らせる。その結果、債権者はコミュニティにおいてより高い社会的信頼を得ることができ、一般的な認知を増すことができる。この認知こそ、社会集団のなかで流通する資産と呼ぶべきものになる（Lin 2001=2008：194）。

Sensenbrenner 1993 : 1325-7)。

「限定的連帯」とは、同様の困難な状況に直面している人々の間の仲間意識が生み出す社会関係資本である。共通の逆境に直面した者同士で連帯が成り立ち、個人は道義的責務に基づいて利他的行為をとりやすくなる (Portes and Sensenbrenner 1993 : 1327-8)。

「強制力をもつ信頼」とは、コミュニティ自体がもつ拘束力に基づく社会関係資本である。たとえば、在米キューバ人コミュニティでは、起業のための融資に担保をとらなかった。その代わりに、債務者当人のキューバでの評判が担保となった。債務不履行者や信頼に背く者は、コミュニティ内から排除されることになる。移民コミュニティが個人にとって数少ない資源の供給源である場合、コミュニティから離れて暮らすことは難しい。そのため、利己的な個人であってもコミュニティ内の規範や期待を遵守する可能性が高くなり、強制力を持つ信頼が社会関係資本を生み出す (Portes and Sensenbrenner 1993 : 1332-7)。

つまり、移民コミュニティの成員が利他的行為をするかどうかは、コミュニティの性質に大きく影響を受ける。共通していえるのは、移民コミュニティ内の相互扶助システムは、強い紐帯から構成されたネットワークから生まれるということである。このように、強固な社会関係が利己的行為を抑制するという見方を、本稿では「社会的埋め込み仮説」と呼んでおく。この仮説では、ムスリムの利他的行為は集団内での評判や地位という報酬によって動機づけられるものとみなされる。

②宗教における利他的行為

社会的埋め込み仮説は、移民の行為全般に適用可能な汎用性を持つが、宗教そのものの特質に焦点を当てているとはいえない。そこで、本稿では「間接的互酬性仮説」を提示することで、利他的行為の宗教的側面に注目したい。間接的互酬性とは、神からの報奨に対する期待を媒介とした利他的行為を促す原理を指す。滞日ムスリム・コミュニティは、移民コミュニティとしての性格を強く持つ一方で、宗教的ニーズに基づいて形成されている。それゆえ、滞日ムスリム・コミュニティにおいて利他的行為を行う行為者を理解するに際して、2つの仮説が必要になる。本稿では、宗教の文脈における利他的行為の行動原理を理解するために、贈与－交換論を用いる。

神と人との間に生じる交換行為は贈与－交換論の枠組みにて検討されてきた。古代から人は神に対して、供物や供儀を贈り、見返りに祝福や恩恵を期待する。だが、神には互酬性に基づく返済の義務はない。つまり、神と人との交換関係は、人から神への一方的贈与と、贈与に対する神からの返礼への期待が基本的な構造となる (伊藤 1995 : 225-30)。

伊藤によると、こうした構造は中世になって変化したという。「神と人の関係が供物を媒介にした直接的互酬性から、救いを媒介とした間接的互酬性に転換した」のである (伊藤 1995 : 235-6)。イスラームにおいては、日々の宗教実践や善行を積み重ねる行為が、最後の審判での判決を左右する (大塚 1989)。それゆえ、ムスリムの善行は受益者たる貧者に向けたものではなくアッラーへの贈与であり、善行に報いるのも貧者ではなくアッラーである。ここに至って、人間同士ではなく神が与える救いを媒介とした間接的互酬関係が成立する (大塚 1989 : 117-27)。

利他的行為が、神による救いや恩恵を媒介としてなされるという見方を、本稿では「間接的互酬性仮説」と呼んでおく。滞日ムスリムがコミュニティへの利他的行為として行うマスジド設立資金

の寄付、貢献活動への参加、困難を抱える人への手助けなども、こうした原理で捉えることができる。

1 調査方法と対象

本稿で取り上げるのは、宗教法人日本イスラーム文化センター（以下、JIT と表記）により運営されている大塚マスジドの事例である。大塚マスジドを拠点とする滞日ムスリム・コミュニティの活動は、宗教行事、冠婚葬祭、勉強会、学校運営、ムスリム同士の交流の機会、悩み相談や金銭的な支援、自然災害や人的災害に対する国内外での貢献活動など多岐にわたる。問題が生じると JIT に相談が持ち込まれるなど、活発な取り組みから知名度も高い⁽⁶⁾。

活動は、日本人と協力して行われることもあるが、主として滞日ムスリムたちの資源提供により支えられている。大塚マスジドを運営する JIT の理事会メンバーは無給であり、奉仕活動として JIT の活動に取り組んでいる。JIT が運営しているホームページおよび SNS では、インターナショナルイスラミーヤスクール大塚（International Islamia School Otsuka）運営のための資金や日本に住む孤児支援資金など、いくつかの活動への寄付を募っている⁽⁷⁾。活動内容により使用している銀行口座が異なるので、滞日ムスリムたちは自身が賛同する活動に寄付ができる。

JIT には、ムスリムだけではなく、問題を抱える人からの相談が広く持ち込まれるが、金銭では解決できないような問題にも協力者を募って取り組む。たとえば、職を失い生活に困難を抱える人がマスジドを頼ってきた際には、マスジドを利用する人々のネットワークを通じて職探しを手伝う。他にも、シェルターとなるアパートの提供などを行う（岡井 2018）。なお、大塚マスジドを拠点とする滞日ムスリム・コミュニティは、自集団のためだけに貢献活動を行うわけではない。日本にて災害が発生した際の被災地支援や毎月池袋の公園にて行われているホームレスへの炊き出し支援など他集団に対する貢献活動にも取り組んでいる。

このように対外的な活動が多い大塚マスジドでは、従来の印象とは異なる滞日ムスリムたちの姿がみられる。JIT 作成の『日本人の為のイスラーム解説』には、マスジドは「いつでも、誰でも立ち寄れる」（永井 2020: 11）と書かれている。実際、大塚マスジドはオープンで人の流動性が高く、筆者が訪問するたびに新しい人と出会うほどである⁽⁸⁾。マスジドが開かれているのは、ムスリム限定ではない。筆者はイスラームの勉強会やボランティアへの参加を目的に、非ムスリムの日本人や

(6) JIT の活動は、1993 年に池袋にあるビルの一室を借りて、礼拝室として利用し始めたところから始まり、滞日ムスリムたちの定住化が進むにつれて浮上するニーズに合わせてそれぞれの課題に対応してきた。1999 年には、滞日ムスリムが日本で抱えるハラールフードの問題やイスラーム文化圏へ食品を輸出する日本企業の要望を受け、ハラール認証を始める。2000 年頃には、在日サウジアラビア大使館の援助も受けて現在の物件を購入し、大塚マスジドを開堂する。その後、移民第二世代の子どもたちが増えはじめた 2000 年代前半には、マスジドの隣に幼稚園を 2017 年には近くのビルに小学校を設立する（JIT が発行する「大塚マスジド 歴史と現状・活動」を参照）。

(7) JIT「寄付」<https://www.islam.or.jp/donation/>（2024 年 3 月 29 日最終閲覧）。

(8) 大塚マスジドを利用するムスリムの特徴として、以下の 2 点が挙げられる。1) 幅広い世代およびマルチエスニックなムスリムが集うが、南アジア、東南アジア出身者が比較的多い。大塚マスジドは立地の良さにより居住地域の特性にとらわれず、多様な人々が集まりやすい。2) 大塚マスジドには女性専用の礼拝室が用意されているため、ムスリマも少なくない。

学生がマスジドを訪問している姿を何度も目撃した。

分析に際しては、参与観察および2名のJIT理事会メンバー、それ以外のムスリム男性9名、女性4名の計15名に実施した聞き取りデータを用いる⁽⁹⁾。調査は、2022年3～10月に大塚マスジドにて実施した。具体的には、個人礼拝や集団礼拝の見学、初心者向けのイスラーム勉強会への出席、ホームレスへの炊き出し支援への参加、フードドライブ活動の手伝いといったことが挙げられる。さらに、毎週土曜日に行われる勉強会と勉強会後の食事会にも定期的に参加した。

インタビュー対象者の選定は、女性の場合、女性の礼拝室を訪れて直接交渉する方法と調査の概要を説明して適切な回答者を紹介してもらう方法で行った。男性の場合、マスジドの性質上、女性である筆者が男性ムスリムに直接インタビューの交渉をするのが難しかったため、主としてJIT理事会メンバーに紹介してもらった。人物はすべて仮名またはJIT理事会の役職を用いている。

2 滞日ムスリム・コミュニティにおける利他的行為の行動原理

(1) 社会的埋め込み仮説の検証

まず、「社会的埋め込み仮説」の妥当性を検討する。これに適合的なのは、都内で自営業を営むバングラデシュ出身のライアン⁽¹⁰⁾の例だった。ライアンは、日本で専門学校に通っていた頃に、身体の調子が悪くなってしまい学校に行けない日々が続き、生活するためのお金が足りなくなったり、ビザの問題が発生したりと、困難に直面した。その際に大塚の人たちに相談して、アドバイスをもらったのだという。JITの事務局長は弁護士を紹介してくれて、ビザの問題も解決した。ライアンは今では多様な人々へ支援を行っている。

モチベーションは、自分も最初に来た時は、大変なことだったし、自分を他の人も助けてくれたから。みんな（お互いに）。（中略）たとえば、私が3人を助けたら、（私が助けた）その3人は、他の3人を助ける。1人が3人。3人がみんなを助けたら、問題なく上手くいけるから⁽¹⁰⁾。

実際に滞日ムスリム・コミュニティでは、コミュニティから支援を受けた経験を持つ人が少なくない。そして、自身がコミュニティから受けた恩恵が利他的行為を動機づけることがある。特に移住により、身近な社会関係から引き離された移民にとって、滞日ムスリム・コミュニティで醸成される社会関係資本はセーフティーネットとしての機能を果たす⁽¹¹⁾。

他にもインタビュー対象者のなかには、利他的行為を通じて社会関係が意識されている事例があった。まずは、パキスタン出身のレイラの例である。レイラは、2017年頃から継続的に日本語が十分に話せない女性たちに通訳として支援をしている。主には妊娠している女性や子どもが病氣

(9) JIT理事会メンバー2名には、主にJITの活動について聞き取りをした。

(10) ライアンへの聞き取りによる（2022年10月1日）。括弧内は筆者が加筆、インタビューからの引用では回答をわかりやすくするために一部内容を修正。

(11) 移民はホスト社会で構造的に不利な状態に陥りやすいにもかかわらず、日本の移民統合政策の欠如や自治体における施策の地域差などにより、現状では行政から十分なサポートを受けることが難しい。そこで、移民の宗教コミュニティが日本で困難を抱える移民たちのセーフティーネットになっている（白波瀬・高橋2018：15-6）。

の母親と一緒に病院に行き、医師と女性の通訳を行う。具体例を紹介すると、5～6カ月間にわたり病院に通院する女性に週2回ほど付き添い通訳を行った。レイラによると、今まで困難を抱える人を助けてきたので自分が困っていたら誰かが助けてくれるという。そのような助け合いの連鎖、つまり相互扶助関係があると語る。

私たちそういう（困っている人を助ける）人だから。みんな助けてくれる。みんなわかっている。厳しい人は（誰にも）助けてもらえないよ、誰も。私たちは、みんなが困っている時に助けている。だから、みんなも、私たちが多分、一回電話するとみんな助けてくれるよ、私たちのために（私たちを助けてくれる人が）何人かいる。（中略）私が今（誰かを）助けると、私を助けるために誰かがいる。（中略）ムスリムは大体そういう人だね。みんなつながっている。チェーンみたいにつながっている。みんな助けてくれる。助けない人は少ない⁽¹²⁾。

次に、日本の大学院で博士課程を修了し、現在は企業で働くオーマリーも、利他的行為を通じて社会関係が意識されている事例に該当する。オーマリーは masjid にて IT 関連の技術的な支援の経験がある。オーマリーによると互いに助けあう関係がコミュニティで形成されているという。彼の出身国であるパキスタンでは、両親や兄弟だけではなく、近所に住む親族などの大家族により相互扶助システムが形成されるという。だが、日本へ移住したオーマリーには、現在はそのような血縁に基づく相互扶助の関係がない。その代わりになるのが、イスラームの相互扶助関係だという。

今はそういうファミリー、家族がないんですけど、でも、コミュニティがいれば、同じ。まあ、パキスタンだったら家族でしたけど。こっちではそういう関係は宗教で作っているんですよね。そういう宗教が共有なので、助けてあげると、助けてくれるものが作られています⁽¹³⁾。

さらに、個人およびコミュニティの信頼性に依拠する形でコミュニティへの利他的行為が後押しされている事例として、シリア出身のイブラヒムの経験を挙げておく。イブラヒムは、大学院進学を機に日本へ移住してきた。イブラヒムは、困っている人への支援の一環として、保証人となることが多々ある。イブラヒムは、面識がない人の保証人になることもあるが、保証人になるのは身元がしっかりしている者だけであるという。その確認は本人と電話で話すこともあるが、ネットワークを活用して、保証相手の人となりを確認することもある⁽¹⁴⁾。

イブラヒムの事例からは資源提供を行う際に社会関係が全く意識されていないわけではないことがわかる。要するに、コミュニティ内での社会的信頼は、交換行為を動機づけるとまではいかないが、行為を後押しする要素として機能していると思われる。

それは、滞日ムスリムに資源提供を呼びかける際に自身およびコミュニティの信頼性が必要になるという事例からもわかる。JIT と協力して教育や貧困問題に取り組むハッサンは友人にも寄付活動の情報を共有して、協力して取り組むようにしている。

(12) レイラへの聞き取りによる（2022年9月8日）。

(13) オーマリーへの聞き取りによる（2022年9月27日）。

(14) イブラヒムへの聞き取りによる（2022年8月19日）。

いつもなにかプロジェクトする時は「こういったプロジェクトがありますよ。目標金額は20万円。で、私のシェアは1万5000円。残りは18万5000円が必要です。(中略) 参加しませんか。一緒にやりませんか。これ他の友達と一緒に話してみませんか」。私は、そういったやり方でいくわけですね。もちろん、この20万円のプロジェクトに(自身が)20万円出してやることも、あり。でも、私の考え方はそうじゃないです。一緒にやった方が(中略)よいことをやるような道に行くわけだし。私は、いつもそう考える⁽¹⁵⁾。

金銭が関わることだからこそ、プロジェクト自体の信頼性が重要になる。それゆえハッサンは、自身の信頼性を示すために意識的に行動している。彼の挙げる例を借りると、まずはコミュニケーションの取りやすい14～17人ほどの友人にプロジェクトの情報を共有して協力を募る。そして、その友人の友人にも声をかけるようにと呼びかけるようにしているという。他にも知り合い以外も含むSNSのグループに、プロジェクト内容をシェアすることもある。ハッサンのことを知らない人が多いグループだとしても、そこに参加している自身の友人がハッサンの信頼を保証してくれるという。

ハッサンの語りからも、資源提供を呼びかけられた行為者は、資源提供を呼びかける個人およびコミュニティの社会的信頼に基づき、資源提供を実行するかどうかを決定していることがわかる。つまり、滞日ムスリムたちの利他的行為の実行における決定に社会関係が意識されているのである。結果、このような個人および集団における社会的信頼がコミュニティへの資源提供を促進する。

成員同士の強固な連帯が互酬原理による相互扶助関係を発達させるという「社会的埋め込み仮説」は、滞日ムスリム・コミュニティでも部分的に該当する。滞日ムスリムは、コミュニティに利他的行為を行う際に、自身が埋め込まれている社会関係を意識した行動をとっていた。

しかし、利他的行為の動機を尋ねた際に、自身の社会関係についてのみ言及する者は少なかった。つまり、自身が埋め込まれている社会関係は利他的行為を促進するものの、基礎的な原理になっているとはいえないと思われる。

(2) 間接的互酬性仮説の検証

本項では「間接的互酬性仮説」に基づき、滞日ムスリム・コミュニティにおける利他的行為を動機づける原理を検証する。表1が示すように、インタビュー調査にて、滞日ムスリムたちのコミュニティへの利他的行為を動機づけている要因について尋ねたところ、インタビュー回答者の13名中10名が「イスラームの信仰」および「教義」により行為が動機づけられていると答えた⁽¹⁶⁾。

(15) ハッサンへの聞き取りによる(2022年9月29日)。

(16) インタビュー回答者のうち1名は利他的行為の経験について明確な回答が得られなかった。

表1 インタビューにて言及された利他的行為の動機

言及項目	合計
イスラームの信仰／教義	10
JIT 関係者からの依頼 ^{※1}	1
その他 ^{※2}	1

※1 ホームレスへ食料支援を行うカイロは、利他的行為の動機について「ホームレスに食料品を渡しているがホームレスのためにしているわけではない。いつもお世話になっている（JITの事務局長）に頼まれたから行う」とのみ語った。

※2 大塚 Masjid と協働して出身国への支援活動を行うマリyamは、利他的行為の動機について「自身の尽力により支援対象者が幸せになることが、自身の幸せだ」とのみ語った。

※ インタビュー回答者のうち1名は利他的行為の経験について明確な回答を得られなかったため含めていない。

アッラーのためにだよ。そう。全部アッラーのために、モスクのためにやることは一番リワード（報奨）がもらえる。モスクのために、なにかやると、本当にアッラーが私たちのために何かつくってくれる。そういう感じ。あとは、他の理由はない。有名になるためにじゃない。それじゃない、全然⁽¹⁷⁾。

まあ、一つのモチベーションがサワープ（報奨）がもらえる。リワード（報奨）がもらえる。自分はこういうことを信じているんですけど、この人生の目的が、次の人生のためです。なので、できるだけこの人生で良いことをしないといけないと個人的に信じているので。なので、あの、サワープをもらうために人のためとかこういう（支援）活動をしています⁽¹⁸⁾。

イスラームでは、弱者救済が重視されている（小杉2006：584）。それゆえ、イスラームの教えに動機づけられて、利他的行為を実行する者も少なくない。ホームレス支援にて食料品を提供するザイドは、以下のように語る。

たとえば、そのホームレスに（食料品を）渡しているけど、ホームレスから「ありがとう」って言葉聞きたいからじゃないんですね。それは、私たちの神様、アッラーから「そうやってください」と言われているからやっていて。その代わり、自分たちが亡くなった時も、アッラーから許しを待っているんですね。それでやっているんですね⁽¹⁹⁾。

回答者のほとんどが行為の動機としてイスラームの信仰および教義に言及したことから、間接的互酬性が滞日ムスリムのコミュニティへの利他的行為を強く動機づけていることがわかる。

現実滞日ムスリムからの贈与を直接的に受け取るのは、困難を抱える人である。しかし、与え手であるムスリムが善行の返礼を期待するのはアッラーに対してのみであり、直接的に贈与を行った相手に返礼を求めることはない。そのため一般に、資源の与え手と受け手の間に直接的交換関係が生まれることはないのである。

神からの報奨への期待により相互扶助システムの発達を説明する「間接的互酬性仮説」は、滞日

(17) レイラへの聞き取りによる（2022年9月8日）。

(18) オーマリーへの聞き取りによる（2022年9月27日）。

(19) ザイドへの聞き取りによる（2022年8月26日）。

ムスリムの行為をかなりの程度説明していた。ほとんどの回答者が自身の利他的行為の動機として、「イスラームの信仰」および「教義」について言及した。

滞日ムスリムたちは、アッラーへの一方的贈与としてコミュニティへの利他的行為を実施し、その善行に対するアッラーからの返礼として報奨を期待する。行為者が交換行為を続けるには見返りが重要であるが、与え手は交換行為の見返りとして、アッラーから報奨を得ている。ここには、アッラーと滞日ムスリムの間に、間接的互酬関係が成立していることがわかる。

さらに、イスラーム・コミュニティでは、贈与の与え手と受け手との間に直接的交換関係が成立しないため、受け手には返礼の義務が生じない。それゆえ、滞日ムスリム・コミュニティでは、内部の連帯が強固でなくとも利他的行為が発生するのだと思われる。

滞日ムスリム・コミュニティでは、間接的互酬性がコミュニティへの利他的行為を動機づける主たる要因である。それゆえ、移民コミュニティの定説であった強固な連帯ではなく、流動性が高く弱い紐帯しかなくとも、利他的行為が促進されていたのである。

3 滞日ムスリム・コミュニティにおける利他性の起源

滞日ムスリム・コミュニティにおける利他性の起源を明らかにするために「社会的埋め込み仮説」と「間接的互酬性仮説」に則して、滞日ムスリムの行動原理を検証した。滞日ムスリム・コミュニティにおける利他性の発達に関して、主として支持されたのは「間接的互酬性仮説」である。滞日ムスリム・コミュニティでは、善行を媒介としたアッラーへの間接的贈与とそれに対するアッラーからの報奨という形で、神と人との間接的互酬性に基づく交換関係が成立していた。与え手と受け手との間に互酬性に基づく直接的交換関係が生まれなかったことから、内部の連帯が強くなくとも、コミュニティにおける相互扶助制度が成立していたのである⁽²⁰⁾。

だが、滞日ムスリム・コミュニティにおける利他的行為を生み出す原理は「間接的互酬性仮説」だけでは説明しきれない。グラノヴェッターは、人間の行為に関して有意義な分析を行うには、過小社会化および過剰社会化という極端な理論に当てはめて検討するのは危険であるという。現実の行為者は、関係性を無視して自己にとって最も合理的な選択のみをするわけでもないし、指名された役割に忠実に従って、それ以外の行動をしないわけでもない。人間の行為は、進行中の社会関係のシステムに埋め込まれていると指摘する (Granovetter 2017=2019: 16-7)。

実際「社会的埋め込み仮説」の事例として紹介したように、インタビュー回答者は、利他的行為の経験および動機を語る際に、自身が埋め込まれている社会関係について言及することがあった。すなわち、間接的互酬性ほど利他的行為を動機づけていないが、自身が埋め込まれている社会関係も意識されていたのである。

また、イスラーム・コミュニティでは贈与の受け手による与え手の認知の拡大は期待できない。その代わり、滞日ムスリム・コミュニティでは、与え手同士のネットワークにおいて、個々人の認

(20) 滞日ムスリム・コミュニティでは、フリーライダーの存在も大きな問題にならないと思われる。合理的な個人であるムスリムが、アッラーからの見返りを求めて、皆で共有する利益のために行動しているのであり、アッラーから選択的誘因を得ているからである。

知が増加していることを示唆する語りがあった。

大塚マスジドを拠点とする滞日ムスリム・コミュニティには、困難を抱える人への支援において、明確に組織化されたシステムはない。それゆえ、コミュニティに相談事が持ち込まれるたびに、相談内容に応じて資源提供者同士のネットワークに蓄積された情報に基づいて適任者を紹介し合いながら解決が目指される。

これに適合的なのは、ライアン⁽²¹⁾の事例である。ライアンの元には、毎日のようにSNSおよび人伝で、多数の相談事が持ち込まれる。だが、ライアンにも仕事や家庭があり、すべてを一人で解決できるわけではない。そのため、持ち込まれた相談事に応じて適任者に支援要請をすることも多い。ライアンの語りからは相談内容に合わせて、課題解決に最適な人材の選定をしている事がわかる。

まあ、自分も忙しかったら、他の人たちにも連絡して。ちょっと、彼を手伝うことはできますかって感じで。明日だったら3人くらい来るんです。（中略）それで家を探している（けれども）、僕は家の仕事やっていないから。で、僕一番初めに（日本に）来た時は、他の人に家を与えてあげている人（家を貸している人）に家を借りた。だから、（その人を）紹介して、その人の家に。みんな、なんかこんな感じで。お互いにやっていますね⁽²¹⁾。

さらに、レイラの「私たちそういう（困っている人を助ける）人だから。みんな助けてくれる」という語りやオーマリーの「助けてあげると、助けてくれるものが作られています」という語りから利他的行為の結果として、贈与の受け手による見返りを求めているにしても、資源提供者自身はコミュニティ内にて「コミュニティに貢献している人」という認知が高まっていると認識していることがわかる。実際、レイラに利他的行為のきっかけを尋ねたところ、大塚マスジドの関係者からの連絡があったからだという⁽²²⁾。つまり、資源提供者ネットワークにて「コミュニティに貢献している人」という認知が高まった結果として、持ち込まれた相談事に対する適任者として支援要請をされているのである。

リンによると、名声は行為者間のさらなる社会的交換と不平等な取引を促すことで、社会関係資本を強化するという。さらに、個人の名声は集団の名声も高めることにつながり、集団内の連帯と資本へのアクセス可能性を強める（Lin 2001=2008:202）。すなわち、あくまで副次的な効果であるものの滞日ムスリム・コミュニティにおいても、主に資源提供者ネットワークにて「コミュニティに貢献している人」という認知を高めることはコミュニティと資源提供者自身の社会関係資本の醸成につながっている。

ネットワークには、集団に対する資源提供を促す2つの役割がある。1つが上述したような社会的誘因、つまりコミュニティからもたらされる名声である。もう1つが、資源提供に必要な費用を低減させる効果である（樋口1999）。たとえば、JITはホームページ、SNS、マスジド内のポスターや放送にて貢献活動への参加を呼びかけている。呼びかけがされる活動は金銭的な寄付だけ

(21) ライアンへの聞き取りによる（2022年10月1日）。

(22) レイラへの聞き取りによる（2022年9月8日）。

ではなく、ホームレスへの炊き出しボランティアやフードドライブへの食料品提供など多岐にわたる。大塚マスジドは、滞日ムスリム個人の関心に合わせて、寄付や貢献の方法を選ぶことができるプラットフォームとなり、個人のコミュニティへの資源提供を促進させる役割を担っていた。

調査から明らかになったのは、滞日ムスリム・コミュニティにおける利他的行為は、アッラーとムスリムとの間接的互酬性を主たる動機としているということである。だが、与え手が埋め込まれている社会関係が全く意識されていないわけではない。間接的互酬性ほど滞日ムスリムの利他的行為を動機づけてはいないが、自身が埋め込まれている社会関係が意識されていることで、利他的行為の実行を後押ししていた。

滞日ムスリム・コミュニティにおいては、内部の連帯が利他性の起源でないため、強固な連帯ではなくとも利他的行為が動機づけられていた。弱い紐帯により連帯していたため、自集団だけではなく他集団との資源提供をも可能とし、コミュニティにさらなる資源や情報の蓄積を促進している。それらの資源は、コミュニティだけではなく滞日ムスリム個人も利用可能な社会関係資本となる。

おわりに

本稿では、ムスリムたちのコミュニティに対する利他的行為を2つの仮説に則して検証した。その結果、滞日ムスリム・コミュニティにおける利他性は、主に神と人との間接的互酬性により動機づけられるものの、自身が埋め込まれている社会関係が全く利他的行為を動機づけていないわけではなかった。

移民コミュニティにおける利他性は、コミュニティの強固な連帯に依拠して発達しているとされてきた。なかでもムスリム・コミュニティは、仲間同士の強い絆に基づき自身の信仰および社会制度を発達させている排他的なコミュニティの姿が想定されてきた。だが、現実には、大塚マスジドを拠点とした滞日ムスリム・コミュニティは、そのようなステレオタイプとはほど遠く、ゆるやかな構造をもつ集団であった。間接的互酬性がコミュニティにおける利他性を発達させることで、ゆるやかな構造のもとでも社会制度を活発に発展させてきたのである。

本稿は事例研究であるため、明らかになった利他的行為の行動原理が大塚マスジドを除く滞日ムスリム・コミュニティ全体に適用が可能かどうかはさらなる検討が必要である。大塚マスジドは活発な取り組みから知名度が高く、他の滞日ムスリム・コミュニティと比較しても多様な資源と情報が蓄積されていると思われる。他方、たとえば利用者のエスニシティに偏りがみられるコミュニティではより相互扶助関係が強まるのか、それとも弱まるのか、さらなる実証研究が必要となる。

(たかはし・まお 早稲田大学院人間科学研究科修士課程修了)

【参考文献】

- 安達智史 (2018) 「多文化主義と西欧ムスリム——「閉鎖性」と「開放性」のアイデンティティ論」『現代社会学理論研究』12巻, 103-115 頁
- Cadge, Wendy and Elaine Howard Ecklund (2006) "Religious Service Attendance Among Immigrants:

- Evidence from the New Immigrant Survey-Pilot,” *American Behavioral Scientist*, Vol.49, 1574–1595.
- Foner, Nancy and Richard Alba (2008) “Immigrant Religion in the U.S. and Western Europe: Bridge or Barrier to Inclusion?” *International Migration Review*, Vol.42, No.2, 360–392.
- 福田友子 (2012) 『トランスナショナルなパキスタン人移民の社会的世界——移住労働者から移民企業家へ』 福村出版
- Granovetter, Mark (1985) “Economic Action and Social Structure: The Problem of Embeddedness,” *American Journal of Sociology*, Vol.91, No.3, 481–510.
- (2017) *Society and Economy : Framework and Principles*, Belknap press of Harvard University Press. (= 渡辺深訳 (2019) 『社会と経済——枠組みと原則』 ミネルヴァ書房)
- 樋口直人 (1999) 「社会運動のミクロ分析」『ソシオロジ』 44 巻 1 号, 71–86 頁
- (2005) 「移住システムと移民コミュニティの形成——移民ネットワーク論からみた移住過程」梶田孝道・丹野清人・樋口直人『顔の見えない定住化——日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会
- 樋口直人・稲葉奈々子・丹野清人・福田友子・岡井宏文 (2007) 『国境を越える——滞日ムスリム移民の社会学』 青弓社
- Hirschman, Charles (2004) “The Role of Religion in the Origins and Adaptation of Immigrant Groups in the United States,” *International Migration Review*, Vol.38, No.3, 1206–1233.
- 稲場圭信 (2011) 『利他主義と宗教』 弘文堂
- 伊藤幹治 (1995) 『贈与交換の人類学』 筑摩書房
- 伊藤雅俊 (2021) 「滞日インドネシア人ムスリムの宗教的・文化的つながり——非イスラーム圏で寛ぎの場所を求めて」『国際関係研究』 41 巻, 69–79 頁
- 川添航 (2017) 「外国人定住化時代におけるイスラーム系宗教施設の役割とその拡大——東京都豊島区「マスジド大塚」を事例として」『新地理』 65 巻 3 号, 16–33 頁
- 小杉泰 (2006) 『現代イスラーム世界論』 名古屋大学出版会
- 工藤正子 (2008) 『越境の人類学——在日パキスタン人ムスリム移民の妻たち』 東京大学出版会
- Lin, Nan (2001) *Social Capital : Theory and Research*, New York: Routledge. (= 筒井淳也・石田光規・桜井政成・三輪哲・土岐智賀子訳 (2008) 『ソーシャル・キャピタル——社会構造と行為の理論』 ミネルヴァ書房)
- Min, Pyong Gap (1992) “The Structure and Social Function of Korean Immigrant Churches in the United States,” *International Migration Review*, Vol.26, No.4, 1370–1394.
- 永井, M. ARIFIN (2020) 『日本人の為のイスラーム解説』 日本イスラーム文化センター
- 子島進 (2014) 『イスラームを知る 21 ムスリム NGO——信仰と社会奉仕活動』 山川出版社
- 岡井宏文 (2007) 「イスラーム・ネットワークの誕生——モスクの設立とイスラーム活動」樋口直人・稲葉奈々子・丹野清人・福田友子・岡井宏文『国境を越える——滞日ムスリム移民の社会学』 青弓社
- (2018) 「ムスリム・コミュニティと地域社会——イスラーム団体の活動から「多文化共生」を再考する」高橋典史・白波瀬達也・星野壮編『現代日本の宗教と多文化共生——移民と地域社会の関係性を探る』 明石書店
- (2021) 「「グローバルご近所」の誕生——大塚モスクの支援活動とネットワーク」西尾哲夫・東長靖編『中東・イスラーム世界への 30 の扉』 ミネルヴァ書房
- 大塚和夫 (1989) 『異文化としてのイスラーム——社会人類学的視点から』 同文館出版
- Portes, Alejandro, ed. (1995) *The Economic Sociology of Immigration: Essays on Networks, Ethnicity, and Entrepreneurship*, New York: Russell Sage Foundation.
- Portes, Alejandro and Julia Sensenbrenner (1993) “Embeddedness and Immigration: Notes on the Social Determinants of Economic Action,” *American Journal of Sociology*, Vol.98, No.6, 1320–1350.
- Portes, Alejandro and Rubén G. Rumbaut (2014) *Immigrant America: A Portrait*, 3rd ed., Oakland: University of California Press.

- 桜井啓子（2003）『日本のムスリム社会』筑摩書房
- 佐藤麻里絵（2022）「滞日ムスリムのネットワークとトルコを拠点とするシリア人 NGO の連携——大塚モスク・JIT を起点とするシリア難民支援」『移民政策研究』14 号, 91-106 頁
- 白波瀬達也・高橋典史（2018）「「宗教と多文化共生」研究が目指すもの」高橋典史・白波瀬達也・星野壮編『現代日本の宗教と多文化共生——移民と地域社会の関係性を探る』明石書店
- 園部裕子（2014）『フランスの西アフリカ出身移住女性の日常的実践——「社会・文化的仲介」による「自立」と「連帯」の位相』明石書店
- Sunier, Thijs (2021) "Islam, Locality and Trust: Making Muslim Spaces in the Netherlands," *Ethnic and Racial Studies*, Vol.44, No.10, 1734-1754.
- 店田廣文（2015）『イスラームを知る 14 日本のモスク——滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社
- （2018）「日本におけるイスラーム系宗教団体とコミュニティ」『社会分析』45 号, 75-94 頁
- Voas, David and Fenella Fleischmann (2012) "Islam moves west: Religion change in the first and second generations," *Annual Review of Sociology*, Vol.38, 525-545.
- Waardenburg, J. (1988) "The Institutionalization of Islam in the Netherlands, 1961-86," Tomas Gerholm and Yngve Georg Lithman, eds., *The New Islamic Presence in Western Europe*, London: Mansell.
- Warner, Stephen R. (1993) "Work in Progress Toward a New Paradigm for the Sociological Study of Religion in the United States," *American Journal of Sociology*, Volume 98, No.5, 1044-1093.